

## 本調査の特徴

1990年代後半以降、携帯電話やパソコンといった、いわゆる「ICT<sup>※</sup>メディア」は急速な発達・普及を遂げ、今や生活するうえで欠かせないものになっている。これに連動して、子どもの世界にもICTメディアは急激に浸透しつつあり、その影響については社会的にも大きな関心事になっている。こうした社会状況を背景として、Benesse 教育研究開発センターでは、小学4年生から高校2年生までの子どもたちを対象に、ICTメディアの利用の実態と意識をとらえることを目的に調査を実施した。

※ICTとはInformation and Communication Technologyの頭文字で、情報通信技術の総称。

本調査の特徴は以下のようにまとめられる。

### 1. 子どもたちのICTメディアの利用の意識と実態を幅広くとらえることができる

携帯電話やパソコンなどのICTメディアについて、利用率や利用内容といった基本的な実態をとらえるとともに、子どもたち自身の意識を把握することができる。また、調査設計においては、コミュニケーションと学習という2つの観点を軸にするとともに、メディアの使い分けといった観点からも実態や意識を把握できるようにしている。

### 2. 発達段階における違いをとらえることができる

小学4年生から高校2年生までの8学年をとおして、できる限り同じ項目を設定して調査を行っており、利用の実態や意識が、成長・発達にともなってどのように異なっているのかを把握することができる。

### 3. 質問紙調査に加えて、インタビュー調査も実施しており、多面的な実態把握ができる

本調査の中心である質問紙調査に加えて、グループインタビュー調査も実施することで、子どもとICTメディアとのかかわりについて、多面的な把握を行うことができるように配慮している。

## 調査概要

### 1. 調査テーマ

小・中・高校生のICTメディアの基本的な利用実態と意識

### 2. 調査方法

学校通しの質問紙による自記式調査

### 3. 調査時期

2008年9月～11月

### 4. 調査対象

小学4年生～高校2年生 合計10,267人（有効回答数）

※以下、小学4年生を「小4生」、中学1年生を「中1生」、高校1年生を「高1生」のように表記する。

### 5. サンプルの抽出方法

市区町村の人口規模および人口密度を考慮した有意抽出法

※調査対象者が生活する都市の規模によって回答に偏りが生じないようにするため、あらかじめ市区町村の人口規模と人口密度を考慮した3つの地域区分を設定し、調査地域が全国に散らばるようにサンプリングを行った。

※小・中学生については、「大都市」（東京23区内）、「中都市」（地方中規模都市：人口密度が中／人口規模が20～30万人程度）、「郡部」（町村部：人口密度が低／人口規模が1～5万人程度）という3つの地域区分を設定。そのうえで、各地域区分に該当する市区町村のなかから、ランダムに複数の市区町村を抽出。さらに、抽出した複数の市区町村から、ランダムに学校を抽出して、調査を実施。

※高校生については、「大都市」（東京23区内）、「中都市」（地方中規模都市相当）、「郡部」（町村部相当）という上記に準じる3地域区分に加え、学校の偏差値層を考慮して学校を抽出し、調査を実施。なお、対象校は全日制普通科（理数科含む）。

※調査対象校はすべて公立。

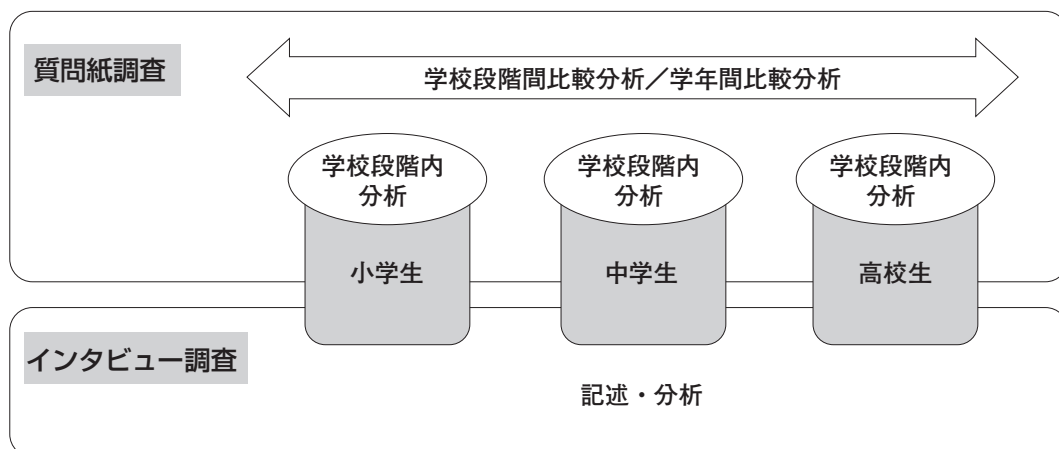
### 6. 調査項目

パソコンの利用有無、パソコンの利用内容、パソコンの利用についての意識、携帯電話の所有有無、携帯電話の利用頻度、携帯電話の利用機能、携帯電話の利用についての意識、携帯電話の利用で気にしていること、対面場面での携帯電話利用に対する意識、ブログ・掲示板やプロフの利用、テレビゲームについての意識、コミュニケーション手段の選択、学習手段の選択、科学技術観 など

## 分析枠組みとサンプル数

### 分析枠組み

本報告書では、質問紙調査について、小学生・中学生・高校生の各学校段階内でクロス集計等を行うことで分析するとともに、学校段階間（もしくは学年間）での比較により分析を行う。また、質問紙調査とは別に実施したインタビュー調査の結果についても検討を加えることで、子どものICTメディアの利用の実態や意識について、多面的な把握を行う。



※インタビュー調査は、質問紙調査とは別に実施しており、調査時期や対象者は異なる。インタビュー調査の詳細については、第5章本文を参照のこと。

### サンプル数

(人)

小学生 (16校)	小4生	小5生	小6生	無回答・不明	計
大都市	292	270	388	9	959
中都市	364	357	369	4	1,094
郡部	341	314	436	2	1,093
計	997	941	1,193	15	3,146

中学生 (13校)	中1生	中2生	中3生	無回答・不明	計
大都市	349	318	341	3	1,011
中都市	353	334	323	7	1,017
郡部	421	458	385	6	1,270
計	1,123	1,110	1,049	16	3,298

高校生 (11校) ※普通科(理数科含む)	高1生	高2生	無回答・不明	計
大都市	844	551	16	1,411
中都市	580	588	4	1,172
郡部	673	559	8	1,240
計	2,097	1,698	28	3,823

小学生・中学生・高校生 合計サンプル数10,267人

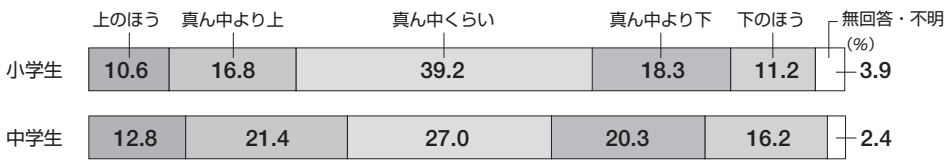
# 分析にあたって

- ①本調査は、ICTメディアの利用にかかわる実態や意識を探ることが主テーマである。そのため、調査設計上、それらの利用者のみが回答する設問が多いが、調査結果を正確に読みとるうえでは、誰が回答者なのかを正確に把握することが欠かせない。回答者が当該学校段階の調査対象者「全員」なのか、「携帯電話所有者（のみ）」なのか、「パソコン利用者（のみ）」なのか、といった点には十分留意されたい。
- ②本報告書では、小・中学生は成績（自己評価）別、高校生は高校偏差値層別の分析を行っている。
- ▽小・中学生：小学生にはクラスの中で、中学生には学年の中での成績について、「上のほう」「真ん中より上」「真ん中くらい」「真ん中より下」「下のほう」のいずれかから自己評価で回答してもらった。「上のほう」と「真ん中より上」を「上位」、「真ん中くらい」を「中位」、「真ん中より下」と「下のほう」を「下位」と設定して分析に用いた。
- ▽高校生：高校生は、学校自体の偏差値層による相違が大きいと思われる。そのため、成績の自己評価ではなく、高校偏差値層を分析に用いた。高校偏差値層は、弊社「進研模試」のデータに基づく学校の平均偏差値から区分した（一部推定）。分類区分ならびに偏差値層ごとのサンプル数は下記のとおりである。
- ・「進学校」…偏差値60以上目安。「中堅校」…偏差値50以上60未満目安。「進路多様校」…偏差値50未満目安。

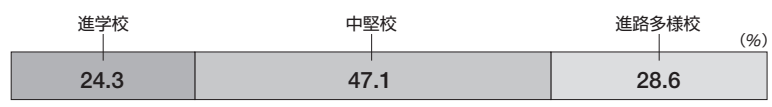
(人)

高校生（11校） ※普通科（理数科含む）	高校偏差値層			計
	進学校（2校）	中堅校（6校）	進路多様校（3校）	
大都市	393	571	447	1,411
中都市	535	357	280	1,172
郡部	0	874	366	1,240
計	928	1,802	1,093	3,823

### ●成績の自己評価（小・中学生）



### ●高校偏差値層（高校生）



③本報告書で使用している百分比（%）は、有効回答数のうち、その設問に該当する回答者を母数として算出し、小数第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、数値の和が100にならない場合がある。